

米大統領にオバマ氏——「ブッシュ・ノー」を示した米国民に続いて、日本でも、自民党政治にかわる新しい政治を、日本共産党といっしょに！」

「ご近所のみなさん、日本共産党です。」

アメリカ合衆国大統領選挙の結果、民主党のオバマ氏が当選しました。

アメリカで初めて、黒人大統領が誕生したということは、アメリカ社会が、人種差別・人種の壁を乗り越えたと言ってもよい、歴史的出来事ではないでしょうか。

日本共産党は、この選挙に示された力が、アメリカ社会の民主主義的な活力として、これから先、いっそう発揮されることを、心から願っています。

「そもそも、みなさん。」

オバマ氏が、対立候補のマケイン氏に圧勝したのは、国民が、ブッシュ大統領の、この八年間に進めた政治を拒否して、「変革」を求めたからではないでしょうか。

オバマ氏は、ブッシュ大統領によって強行された、イラク戦争と、国連無視の一国覇権主義を、厳しく批判しました。期限をきって、イラクから撤退することを約束して、核兵器の廃絶に乗り出す立場も、示しました。

また、とにかく市場（しじょう）に任せさえすればよいという、新自由主義の横行によって、アメリカ社会に広がる貧困と格差、深刻な金融危機に直面して、オバマ氏は、医療保険改革や中所得層への減税、金融規制の強化などを提起しています。

気になるのは、一方で、オバマ氏が、アフガン戦争への米軍派兵を増やすことや、「同盟国」の協力取り付けを強める立場を、明らかにしたことです。

「みなさん。」

日本共産党は、国連憲章に基づく平和の国際秩序の確立を求め、自民・公明の進める、異常なアメリカ言いなり政治から抜け出して、対等・平等な日米関係に転換することを、めざしています。

この立場で、オバマ氏の「変革」の路線が、どのような政策と行動となって具体化されるのか、大いに注目したいと思います。

「ご近所のみなさん。」

日本でも、「変革」を進めるために、力を合わせようではありませんか。

解散含みの政局が続いています。国民の評判が悪くて、解散したくても解散できないのが、自民・公明の麻生内閣ではないでしょうか。

この麻生内閣が、アメリカ発の金融危機・景気の悪化から、暮らしと営業を守ると称して出した、「追加経済対策」。目玉は、二兆円規模・一世帯六万円の「定額給付金」です。

これまでに、所得税と住民税の定率減税廃止など、庶民増税と、後期高齢者医療制度の実施など、社会保障の改悪で、年間十三兆円もの負担増を押しつけられた国民にとって、一回限りの「定額給付金」は、“焼け石に水”ではないでしょうか。しかも、三年後は「消費税増税」だということですから、ひどすぎます。

一方で、カジノ経済に手を染めて損失を出し、中小企業に対して貸し渋り・貸しはがしをしている銀行には、またしても、公的資金の投入です。ここで損失が出れば、また、まるまる国民の負担になってしまいます。

全体として体力のある、大企業・大銀行に、もつと社会的な責任を果たさせるべきです。日本共産党は、大企業応援中心の政治から、**国民の暮らしと営業を応援する政治へと、**変革を進めます。消費税増税には、キツパリ反対です。食料品非課税をこそ、進めます。

日本共産党は、イラクからも、インド洋からも、自衛隊を撤退させて、憲法九条を持つ**国にふさわしい、自主的な平和外交へと、**政治の変革を進めます。「思いやり予算」など、軍事費のムダを減らします。ごいっしょに、日本の変革を進めようではありませんか。